



⑤東京デフリンピックの開会式で盆踊りをアレンジした「ボンミライ」を楽しむ各国の選手たち  
⑥海外の選手たちと共に開会式に出演した瀧澤さん(本人提供)

東京デフリンピックの開閉会式では、聴覚障害のある筑波技術大2年の瀧澤優さん(20)がパフォーマーとして出演し、会場を盛り上げた。「聞こえる力に関係なく、誰もが輝ける社会を発信したい」と臨んだ大舞台と、そこに至るまでの練習を通じ、感じた思いを寄稿してもらった。

## パフォーマー

### 刻む編 下



## 瀧澤さん手話、筆談、アプリで一体感

開会式の「100年の1日」では3つのシーンがあり、うち聴覚障害者を巡る過去を表現したシーン1と、未来を示すシーン3を担当。閉会式の「ボンミライ」では選手たちと踊りました。

リズムの取り方は、現場の状況に合わせて工夫しました。開会式では音楽とともにカウントを取る聴者のパフォーマンスのうなずきや、LED映像の動き、振りの流れを見てタイミングをつかみました。また、自分の中でリズムを覚え、流れを体に染み込ませるようになっていました。閉会式では太鼓の振動があり、それを体で感じ取りながらリズムを合わせていました。練習は、聞こえる人と聞こえない人が一緒になって取り組みました。聴者と話す時は手話通訳者のそばで筆談、メモアプリで会話したり、簡単な

# 喜び、勇気「人生の軸」

な手話や身ぶりを使ったり、さまざまな方法でコミュニケーションを取りました。おかげで振りのタイミングを共に確認し、分らない部分を細かく共有することができ、互いに安心しながら練習できたと感じています。

開会式では踊る時間以外に、いろいろな国の選手たちと少しだけ、国際手話で会話することができました。どうしても通じないところは身ぶりで伝え合いました。気持ちで向き合うことの大切さを改めて強く感じました。「その衣装いいね! 交換する?」と言われ、思わず笑い、すごく楽しかったです。

本番は練習とは違う空気で緊張しましたが「失敗してもいいから、全力で思いきり楽しもう!」と気持ちを切り替えてステージに立ちました。おかげで、練習以上に集中できました。終わった瞬間に緊張がほどけ、近くにいる仲間と自然と目が合って、思わず頬が緩みました。

同じステージに立った一体感がとても心に残りました。いろいろな人から「すごく感動したよ!」と声をかけてもらえて、本当にうれしかったです。

## 未来へつなぐ開閉会式

11月15日に開会式、26日に閉会式をいずれも東京都渋谷区の東京体育館で開催。生まれつき聞こえない俳優・演出家の大橋弘枝さんと、聴者の振付家でダンサーの近藤良平さんが演出した。舞台上と客席で、聴覚障害者を含む計約130人のパフォーマー

ーが出演。

開会式ではデフリンピックの歴史を、聴覚障害者の過去・現在・未来で表現する「100年の1日」を上演。閉会式では盆踊りをモチーフに、大会が始まったフランスの言葉で「良い」を意味する「ボン」と日本の盆をかけて未来につなげる「ボンミライ!」を繰り広げた。

また、ろう者として自分が前に立つことで、誰でも安心して参加できる場づくりに少しでも貢献できれば。この3カ月で得た一体感、喜び、挑戦する勇気を、これからの人生の軸として大事にしていきたいと考えています。

「違いを理由にしてあきらめない!」相手に合わせて、伝える方法を選ぶ」という姿勢を大切にしたいと感じました。これからも伝える方法を柔軟に工夫しながら、違いを超えて積極的に関わっていける人間でありたいと思います。